

年 報

(平成20年度)



(大頭森山から朝日連峰を望む)

林 野 庁 東北森林管理局

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

目 次

活動状況概要	1
朝日山地森林生態系保護地域の保全管理	3
庄内海岸林等の保全活動	7
緑の回廊における取組	9
森林環境教育の推進	12
関連新聞記事	18



平成20年度朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動状況(概要)

活 動 事 項	取 組 内 容
(1)朝日山地森林生態系 保護地域の保全管理	管理委員会(6/25) 巡視員会議(6/29、12/6) 合同パトロール(7/26～27) 東北・関東森林管理局合同巡視員会議(9/27～28) 七曲ショートカット標識設置(5/30) 山形県水産関係研究開発要望事項検討会(7/18) スノーモービル乗入に関する関係団体との意見交換(11/12) スノーモービル実態調査等(5/6、3/16～17) 磐梯朝日国立公園朝日地域登山道ワーキンググループ (5/17、7/12～13、9/6～7、9/20～23、3/6)
(2)庄内海岸林等の保全 活動	森林ボランティア活動 クロマツ林整備(下刈り)(6/3) 庄内海岸林の環境美化活動(10/4) 森林ボランティア活動の支援 山形県「森の感謝祭」(6/7) 光ヶ丘松林整備ボランティア活動(6/28、9/20) 酒田北高校:松林整備ボランティア活動～クロマツ林を守ろう～(10/7) 酒田工業高校:松林整備ボランティア活動(9/25、10/30) 遊佐中学校:森林整備体験学習～インターンシップinゆざ～(10/8) 「出羽庄内公益の森づくりを考える会」 (第1回:5/23、第2回:8/29、第3回:2/27) クロマツコンサート(11/1) 万里の松原に親しむ会総会(4/19) 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会総会(2/28)
(3)緑の回廊における取 組	土湯の森自然再生実施協議会(5/1) 土湯の森自然再生の取組 森林再生ゾーンでの植栽作業(6/14) 森林再生ゾーンでの更新補助作業(刈払い)(8/1) モニタリング調査(10/5) 植樹活動準備(稚樹山取り)(10/25)

活 動 事 項	取 組 内 容
(4) 森林環境教育の推進	朝日自然塾プログラムの開講(4回:5/24、6/27、9/13、10/18) 朝日自然塾連絡協議会(12/12～12/13) 巣箱づくりと探鳥会(万里の松原に親しむ会)(11/8) クロマツ探検隊(西荒瀬保育園)(3回:4/17、9/10、11/17) 木工クラフト教室(西荒瀬保育園)(2回:12/15、3/18)
(5) 各種イベント等	山開き(朝日連峰:6/1、6/22、月山:7/1) 「森と水そして月光のしらべ」後援(6/14) 庄内森とみどりのフェスティバル(鶴岡会場)(10/18、19) 庄内森とみどりのフェスティバル(酒田会場)(10/12) 山形県国有林野等所在市町村長有志協議会(6/27) 山形県森林協会総会(5/16) 庄内地方林業振興協議会(5/15) 高箱山自然休養林管理運営協議会総会(5/8、2/17) 朝日地域山岳遭難救助対策委員会(7/29) 月山地区山岳遭難・山林火災対策協議会(8/5) 鶴岡市環境審議会(2/17) 月山ダム水源地域ビジョン推進協議会(2/24) 公益の森づくり活動報告会in庄内(1/24) 全国自然敬愛サミット(8/21) 山形県フォレスター会議(11/18、19)
(6) 広報	広報誌の発行 3回(8/14、11/28、2/18) ホームページ 随時更新



1 朝日山地森林生態系保護地域の保全管理

管理委員会の開催（6月）

朝日山地森林生態系保護地域管理委員会を6月25日（水）に山形市の山形県建設会館で開催。

モニタリング調査やボランティア巡視活動、スノーモービル乗り入れ問題などについて論議。

モニタリング調査は、山菜の採取、溪流釣りの人為の影響を評価するため、平成15年度から実施し、昨年度5ヵ年分の結果が集約されている。今年度から第2期として引き続き継続することを確認したほか、論議を踏まえ調査項目や調査箇所などについてさらに検討を加えることとした。

また、スノーモービル問題では、「森林生態系保護地域への乗り入れは、設定目的を損なうおそれがある。」との見解を再確認。



巡視員会議（春季）開催

夏山シーズンを迎え、朝日山地森林生態系保護地域の巡視活動を始めるにあたり、巡視員会議（春季）を6月29日（日）、山村開発センター（すまいる）で開催。

新たなメンバーに委嘱状を交付するとともに、今年度の活動方針などについて意見交換。会議終了後は勉強会として「朝日山地の鳥類」をテーマに当センター青山所長が講演。



合同パトロールを実施 ～山岳・溪流の3コースに25名参加～

朝日山地森林生態系保護地域の保安全管理の取組として、7月26日(土)～27日(日)に巡視員と国有林関係者による合同パトロールを実施。



朝日川コース



泡滝～大鳥池コース



白滝～大朝日岳コース

コース	月日	人数
白滝～大朝日岳	7月26～27日	5名
泡滝～大鳥池	7月26日	16名
朝日川 (黒俣沢・朝日俣沢)	7月27日	4名

東北・関東森林管理局合同巡視員会議

朝日山地森林生態系保護地域で巡視活動をしている東北森林管理局及び関東森林管理局の巡視員による合同パトロール及び合同の巡視員会議を9月27日(土)～28日(日)に実施。

合同パトロールでは、村上市の三面登山口から平四郎吊橋までを巡視。また、下越森林管理署村上支署で開催された合同巡視員会議では、森林生態系保護地域における入山者のマナー問題など、日頃の巡視活動で感じている点について意見交換。



雨の三面コースを合同巡視



巡視員会議(秋季)開催

朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議(秋季)を12月6日(土)に鶴岡市(旧朝日村)の「朝日山村開発センター(すまいる)」で開催。巡視結果に対する意見交換等が行われた。

会議終了後は勉強会として「自己責任とセルフレスキュー」をテーマに、飯豊朝日山岳遭難対策委員会救助隊隊長としてもご活躍の小国の自然を守る会の井上邦彦氏による講演を実施。



スノーモービル乗り入れ実態調査

朝日山地森林生態系保護地域及び月山周辺におけるスノーモービルの乗り入れについて、5月6日(火)、3月17日(火)に実態調査を実施。シーズン最終日の5月6日には、月山スキー場入口からブス沼・大峠・山毛檜台を経て生態系保護地域に至る乗り入れコースを踏査。その結果、森林生態系保護地域への乗入れは確認できなかったものの、地域境の稜線まで乗り入れたトラックベルト跡を確認。また、乗入れ跡には多数の樹木の損傷を確認。結果は朝日山地森林生態系保護地域管理委員会に報告。



樹木の損傷



トラックベルト跡



登山道保全修復実証試験に参加

9月20日～23日に、環境省が朝日山地で実施した登山道の保全修復と植生復元手法に関する実証試験に参加。これは登山道やその周辺の浸食や裸地の復元手法を検証する目的で、三方境と西朝日岳東側鞍部で実施されたもので、山岳団体等の多くのボランティアが参加。



裸地に緑化ネットを張り終えて(三方境)



浸食箇所石積み(西朝日岳東側鞍部)



2 庄内海岸林等の保全活動

森林ボランティア活動

～クロマツ植樹地で下刈り活動～

酒田市の新林国有林内の松くい虫被害地で昨年植樹を行った箇所において、6月3日（火）、西荒瀬保育園児38名と保護者33名が、下刈り作業を実施。作業指導の山形県・酒田市の職員などを加え、85名が参加。



～庄内海岸林の美化活動を実施～

10月4日（土）、庄内海岸のクリーンアップ活動を実施。鶴岡市から遊佐町までの5会場で漂着ゴミを対象にした清掃活動「クリーンアップ・ザ・庄内海岸」として行われたもの。

当センターは、昨年に引き続き酒田市宮海国有林周辺を担当し、地元自治会、市民団体、地元企業の有志など100名を超える参加があった。大型の台風の影響が無かったせいか、前年よりもゴミの量は少なかったが、約1時間のクリーンアップ活動で約1.2tのゴミを回収。



森林ボランティア活動の支援

～ 光ヶ丘松林整備ボランティア活動～

6月28日(土)、酒田市及び山形県主催の「酒田市都市公園等環境美化活動」が光ヶ丘公園周辺で開催。総参加者数は約150人。当センターは協賛団体として参加し、第二会場で約30人の市民ボランティアに刈払い作業などの森林整備活動を指導。

また、9月20日(土)にも同様の活動が行われた。



～ 中・高生の森林整備ボランティア活動～

9月から10月にかけて庄内海岸の国有林において中・高生のボランティアによる刈払い等の森林整備活動が相次いで実施され、当センターも下刈り作業等を指導。

学校名	月 日	実施箇所	参加人数
酒田工高(1年全科)	9月25日(木)	酒田市 新林国有林	200名
酒田北高(全校)	10月7日(火)	酒田市 新林国有林	221名
遊佐中(3年)	10月8日(水)	遊佐町 十里塚国有林ほか	169名
酒田工高(環工科1～3年)	10月30日(木)	酒田市 新林国有林	118名



3 緑の回廊における取組

第2回「土湯の森」自然再生実施協議会の開催

第2回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会を5月1日（木）に戸沢村役場において開催。平成20年度「土湯の森」づくりについて、新たにブナ等の稚樹を植栽するほか、更新補助のための刈り払いを継続することなどを決定。また、地域の子供たちや地域住民を含めたボランティアに参加を呼びかけながら再生の取組を実施することを確認。この取組はやまがた緑環境税を一部活用して実施。



「土湯の森」自然再生の取組

～ 森林再生ゾーンでの植樹（山取苗の植え付け）～

6月14日（土）、山取苗の植栽を実施。平成19年秋に山取したブナやイタヤカエデなどの約300本を、スキー場跡地でもっとも植生回復が遅れている箇所に植栽。古口小学校5年生を中心とした児童と保護者や地元住民、神室山系の自然を守る会などから55名が参加。



参加者の皆さん



山取苗の植栽

～ 森林再生ゾーンでの更新補助作業（刈り払い）～

8月1日（金）生育しているカエデ類などの稚幼樹の保育や更新補助を目的にススキ等の刈り払いを実施。当日は、戸沢村の住民の方や神室山系の自然を守る会などの22名の参加のほか、アジアやアフリカから訪れているアジア学院の留学生14名も参加。作業終了後「幻想の森」を散策しながら日本の森林にふれた。



刈り払い中！

天然スギの前で「セイ、チーズ」

～ モニタリング調査～

10月5日（日）昨年に引き続き2回目の植生モニタリング調査を実施。

発生稚樹を把握するために昨年設定した4箇所（森林再生ゾーン〔刈払区、対象区〕、自然推移ゾーン〔、〕）の調査プロットに加え、今年6月に植栽したブナ等の稚樹を調査。山形大学農学部の高橋教夫教授と学生7名のほか、神室山系の自然を守る会が協力。



調査結果

- ・森林再生ゾーンの発生稚樹は、30cm未満のスギが大半で、刈払区に多い傾向
- ・自然推移ゾーンでは、30cm以上の稚樹も比較的多い（5,000本/ha）
- ・植栽木では、全苗の樹種や苗高、状況等を把握。正常活着は59%、枯死は7%。57%がウサギの食害を受けているのが特徴的。

～ 土湯の森植樹活動準備（稚樹山取り）～

10月25日（土） スキー場跡地下部の自然推移ゾーン内から来年植え付けするブナ等の稚樹を山取。樹種は、ブナ、ミズナラ、イタヤカエデなど高木性樹種。

戸沢村の神田小学校の親子をはじめ、地元住民や神室山系の自然を守る会から協力をいただき、参加者20名で約400本の稚樹をポットへと移植。

その後、弓ぎりと舞ぎりを使って火おこし体験を実施。風がある屋外という悪条件の中、ようやく1組が火おこしに成功。炭火で作った焼きいもと角川のお母さん手作り角川弁当（森の恵み秋バージョン）をみんなでおいしくいただいた。



4 森林環境教育の推進

朝日自然塾の開講

朝日山地森林生態系保護地域及びその周辺をフィールドとして、森林や自然の働きを体感し自然との付き合い方を学ぶ体験活動型の森林環境教育を実施。

20年度は8回計画したものの、荒天等により4回中止。

新緑の白布平ブナ林で森と遊ぼう

5月24日(土)、小国町白布平で開催。「小国の自然を守る会」「山形県猟友会小国支部」のメンバーが講師を務め、参加者の募集にあたっては地域の子育て支援ボランティアグループ「トライアングル」とタイアップして、地元の小学生親子17人の参加を得て実施。

プログラムは、吊り橋体験、動物たちの目覚め(足跡や糞で動物を見分ける)、森のふしぎ(木の葉や実で万華鏡を楽しむ)、ムササビの巣穴観察、マタギの話、山のルールとマナー。



伝説の大鳥池を訪ねて

6月27日(金)鶴岡市立朝日小学校5・6年生の大鳥交流体験学習として、「大鳥自然の家」と共催で実施。

5・6年生児童65名と、先生・保護者合せて78名が参加。オオルリやアカショウビンなどの野鳥の声を聞き、ブナ林の話や綺麗に咲く花々を見ながら、ムササビの巣穴や蛇の棲み家も発見!吊り橋でスリルを味わいながら、時には友達をかばいながら、全員元気に大鳥池登山を楽しんだ。出羽三山の自然を守る会、山形県猟友会、鶴岡市朝日庁舎の方々が引率者(班長)として協力。



ムササビの巣穴

七曲がりの急登も余裕のVサインで元気に通過。途中にある大鳥清水が美味しかった!



コースの所々で、樹や花、森に棲む動物の話等々。ムササビの巣穴も発見しました。ウルシ、ツタウルシ、トリカブト等危険植物や、ヤマカガシ、ハチ等危険な生き物についても学びました。



朝日川源流で幻のイワナ探検

9月13日(土) 朝日町の朝日川源流で実施。山形県渓流釣り協議会の皆さんに講師としてご協力いただいた。

川のルールや山釣りの仕方、イワナの生態などの説明、餌となる川虫の抜殻などの観察のあとで、山釣り開始。天候のせいか残念ながら釣果は芳しくなかったが、山釣りの楽しさは感じてもらえたよう。イワナを焼いて昼食の予定だったが、雨が強くなってきたため、簡単に昼食を済ませて早々に下山することになった。



釣りの合間に石立にて挑戦

紅葉の葉山で森と歴史をまるごと体験

10月18日、長井市の置賜葉山(1237m)で実施。山形県山岳連盟(長井山岳会)の皆さんにご協力をいただいた。

朝霧の中、元気に黙々と登山を開始。登山の合間に、森の話、葉山に伝わる伝説や地名のいわれ、おけさ堀では、勘三郎夫婦の堀掘削伝説と散在する堀や史跡の話等々が説明された。

山頂からは、祝瓶山、飯豊連峰、吾妻連峰、奥羽山脈、白鷹山等の展望を堪能し、白兔への下山の途についた。



葉山奥の院で

朝日自然塾連絡協議会の開催

12月12日（金）西川町大井沢のセミナーハウスで朝日自然塾連絡協議会を開催。20年度のプログラム実施結果と評価、21年度のプログラムの策定について意見交換を実施。



セミナーハウスで行われた朝日自然塾連絡協議会

みどりの保育園の支援

西荒瀬保育園は、平成20年度山形県みどり環境公募事業の認定を受け、保育園児の森林環境教育を展開しており、当センターが指導を実施。

クロマツ林を探検

4月17日（木）にクロマツ林の探検を実施。樹木の花や芽、サギの巣などを観察したほか、色々な種の飛ばしくみの体験などを行った。



「万里の松原」と庄内海岸林を訪ねて！

9月10日（水）、酒田市光ヶ丘の松陵地区で、万里の松原に親しむ会の三沢会長に万里の松原の歴史や保全するための活動などの説明を受けた後、林内を探索。松ぼっくりの食痕や昆虫などを観察。その後、酒田北港の緑地展望台から壮大なクロマツ林に守られている庄内海岸の様子を観察。



鳥海山で野外観察会！

10月15日（水）、鳥海高原家族休暇村付近の森林で観察会を実施。

保育園周囲のクロマツ林とは違った森林を探索して森林の多様性を体感するとともに、ブナなどの種子を採取し、保育園で育てて将来山に植林する「緑再生里親事業」の一環として行ったもの。

「環境省猛禽類保護センター」でイヌワシやクマタカの実物大の縫ぐるみや剥製を見学した後、野外の探索と種子の採取。講師は白壁洋子氏。紅葉した木の葉やドングリなどを採取し、海岸林とは違った広葉樹林の生態を学習。アケビや秋グミの実を食べたり、キノコやバッタを見つけたりと秋の鳥海山を楽しんだ。



「緑再生里親事業」で種の蒔付け！

11月17日（月）、10月の観察会で拾った木の実をポットに蒔き付ける作業に挑戦。

ブナ、ミズナラなど、植え付ける木の実について説明を受けた後、準備したポットに種を蒔き付け。種まき終了後、種の模型飛ばし、クルミ割りを体験。

蒔き付けた種子は保育園で管理し、3年後に山に植林する予定。



クリスマスツリーを製作

12月15日(月)、「松ぼっくり」を使ったクリスマスツリーの制作を実施。保育園児の年長組38名が「ドイツトウヒの松ぼっくり」を木に見立てて、モールやビーズで飾り付けを行った。



ツリーづくりに熱中!!



卒園記念にモックンづくりに挑戦

3月18日(水)木エクラフト「モックン」づくりに挑戦。木の枝を顔にみたてて、ストラップを作成。



各種イベント等

庄内森とみどりのフェスティバル

庄内森とみどりのフェスティバルが、10月12日(日)酒田市で、10月18日(土)、19日(日)鶴岡市で開催。当センターもパネルの展示等で参加し、センターの取組活動をPR。



山形県フォレスター連絡会議現地視察

民国の林業技術者の相互交流を目的とした山形県フォレスター連絡会議が11月18～19日に行われ、二日目に土湯の森の現地視察を実施。

当日はこの冬初の積雪に見舞われたが、参加者は雪の中、スキー場跡地の自然再生の現場を見て、天然更新などの技術的課題について活発に論議をかわした。



(関連新聞記事等)





西川町と鶴岡市の境界付近の山々で生態系への影響が懸念されてきたスノーモービル乗り入れ問題。今シーズンは愛好者でつくると「自然を守るスノーモービラーの会」(佐藤政入会長)が自主規制の「月山特別ルール」を定め、五月六日に終了した。ルールに盛り込んだ朝日山地森林生態系保護地域への乗り入れ自粛は順守されたが、樹木の損傷は続いており、行政側が損傷をどう判断し、法規制に向けて動くかが今後の焦点となる。

スノーモービルに「月山特別ルール」



寒河江支社 玉虫 秀明

やまがたニュース
解説

生態系保護へ乗り入れ自粛 法規制の動き焦点に

あいセンター、環境運動黒自然保護事務所などは、〇〇七年に保護地域への乗り入れ自粛を要望。モビラーの会は〇八年三月月山特別ルールを定め、三月二十日に今シーズンを迎えた。

ルールでは、保護地域への乗り入れは当面自粛▽乗り入れ台数は一日五十台までとし、事前にモビラーの会に申し込む▽日本スノーモービル安全普及協会「認定インストラクター」が先導する。などを定め、改道マフラーの使用も禁じた。

シーズン前には関係者から「自主的なルールで規制できるか」との声もあったが、モビラーの会と環境省によれば、保護地域への乗り入れは確認されていない。事前申し込みをしなければならぬのはシーズン中三台だけだった。乗り入れ台数も激減しており、佐藤会長によれば昨シーズンは多い日で二百一十五台だった。だが、これはシーズンを通して百台程度という。佐藤会長は「ルールを守る良識ある人だけが来るようになった」とみている。

またイヌワシやノウサギへの影響が確認されなければ保護地域への乗り入れ自粛を二年をめどに見直すとしていたが、保護地域以外の場所でも十分乗しめるようならば無理に主張しない(佐藤会長)という姿勢を示している。

一方、行政側はルールが順守されても生態系への影響があれば乗り入れを法規制するという立場だ。朝日内森林環境保全会(あいセンター)や環境省がシーズン最終日の五月六日に行った乗り入れコースの調査では、樹木の損傷が多数確認された。コースには雪の重みで曲がった樹木が埋まっているが、雪解けが進んで樹木が表面に出ると枝が傷つけられる。イヌワシやノウサギへの影響については、スノーモービルとの因果関係を証明するのは難しいというが、今後も調査を継続する。

コース一帯は養老朝日国立公園のため、法規制するには、二〇一〇年度ごろに見直される同国立公園の公園計画に「車馬等乗り入れ規制地域」として盛り込む必要がある。管轄する環境省は法規制についての対応を決めていない。しかし公園計画を見直す前年度には方向性を決めるとしており、早ければ〇九年度に結論が出る可能性もあろう。



スノーモービルにより損傷したと思われる樹木。環境省などが調査している = 5月6日

事業計画を決める

戸沢村・緑の回廊
自然再生実施協

戸沢村高屋の旧最上川スキ
ー場跡地で自然再生に取り組
む「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の
回廊(土湯の森)自然再生実施
協議会」(会長・高橋教夫山形
大農学部教授)が一日、同村役
場で開かれ、二〇〇八年度の
森づくり事業計画を決めた。
同協議会は〇七年五月に発
足。地区住民や村職員ら十一
人で構成する。東北森林管理

局が設定した「緑の回廊」に
含まれるスキー場跡地の植生
を回復させようと、行政と住
民が協力して活動している。

〇七年度は、植生のモニタリ
ング調査や、地元小学生とと
もに近くの山で苗木の採取な
どを行った。

会議では、〇八年度の事業
計画として、昨年度に採取し
た苗木のスキー場跡地への植
栽や、来年度に植栽する稚樹
の採取をすることを決めた。
また、最上、庄内両地方の小
中学校を対象に実施した森林

環境教育アンケートの結果を
報告。森林環境教育に取り組
んでいるのは小学五、六年生
と中学一年生が多く、内容は
枝払いなどの森林保育作業
や、植物や昆虫の観察が多い
ことが分かったと説明した。

委員からは「アンケート結
果を本年度のプログラムに生
かしたい」「植栽を子どもた
ちに頼むなら、穴掘りなどの
準備をしっかりとしないと駄目
だ」「ホームページを立ち上
げてはどうか」などの意見が
出た。

「大きくなってね」

園児らクロマツ林を除草



庄内

酒田市の西宮補保育園と昨年、同保育園は東 周辺に雑草が繁茂して (佐藤千鶴子園長)の年 北森林管理局朝日庄内 長肥と保護者約九十人 森林環境保全ふれあい 長を助けるため、除草 が三日、同市宮海で、ク センター(青山一郎所 長)とともにクロマツ がた緑環境税)の活用 活動を繰り広げた。

作業を行ったのは、方 里の松原の一角。松く の住居ら約七十人が、約 四百平方メートルに百五十本 を植えた。一年がたち、 さみでクロマツの周辺に 生えている

ヨモギなどを 根元から 切り取り、 保護者(同 センターの 職員も少な を使って除 草した。

佐藤園長 君(こ)は クロマツ が元気に育 つてくれたら いいな」と話してい た。

クロマツの 幼木の周辺に 生えている 雑草を刈り取る園児ら(酒田中 宮海)

〈第3種郵便物認可〉 庄内日報

雑草「チヨッキン」

園児らクロマツ林で草刈隊



はさみで下刈りをする園児ら

酒田市の西宮補保育園が3日、同市宮海のクロ (佐藤千鶴子園長、園児 マツ林では、ヨモギを根元から切り取り、保護者(同センター)の職員も少なをを使って除草した。

「チヨッキン」として森林 保全活動を体験した。 この活動は、県のふれあいの活動の受けを受けた。この日は年長組園児らと連携して今年4月から取り組んでいる。この日は年長組園児らと連携して今年4月から取り組んでいる。この日は年長組園児らと連携して今年4月から取り組んでいる。

園児らは、ふれあい センター職員から、クロ マツが育つためには光 や土の栄養が必要」といふ話を聞いた。その後、 安全のためかまきはなく

2008. 6. 5(木)

人的な利用によるブナなどへの影響

モニタリング調査継続

朝日山地
管理委 本年度から5年間

朝日山地森林生態系保護地域管理委員会は、五期間実施してきた人的な森林利用行為によるブナ林植生などに及ぼす影響のモニタリング調査を、本年度からさらに五期間継続する。一方、スノーモービル乗り入れ問題では、愛好者団体の自主規制などもあり、樹木などの損傷は確実に減少している状況が、山形市内でこのほど開かれた委員会で報告された。

管理委員会は、朝日連峰に残る貴重な森林生態系の保全を目指し、関東、東北の両森林管理局や環境省東北地方事務所、山形、新潟両県、有識者、自然保護団体などの代表者で構成。モニタリング調査

やボランティア巡視活動、自然体験プログラムの実践などを行い、状況に応じた管理方法などを協議している。

二〇〇三年から〇七年まで五年間にわたり行われた保護地域のモニタリング調査で

は、人為的な理由による樹木への大きな変化は認められなかったものの、山菜などの個体数に減少傾向が見られている。五年間の調査結果や問題点などを踏まえ、さらに同一地点での継続調査を行っていくことにした。

スノーモービル問題では、今年五月に旧道月山スキー場入り口から大峠などを經由し生態系保護地域境までの間で実態調査を展開。スノーモービルが乗り入れた跡が確認され、樹木への損傷も認められ



保護地域の樹木への影響などを調べるため、モニタリング調査の継続を決めた「朝日山地森林生態系保護地域管理委員会」
山形市・県建設会館

たが、以前よりも影響度合いは少なくなっているという。今後は、森林や動植物の保護などの面から、愛好者団体と連携を図りながら、来年十二月ごろまでに、保護管理の方向性や考え方をまとめることにしている。

実態把握し生態保全

朝日山地
巡視員 08年度活動を確認

朝日山地森林生態系保護地域の保全を目的に、東北森林

管理局が委嘱した巡視員によ

る会議が二十九日、鶴岡市の

朝日山村開発センターで開か

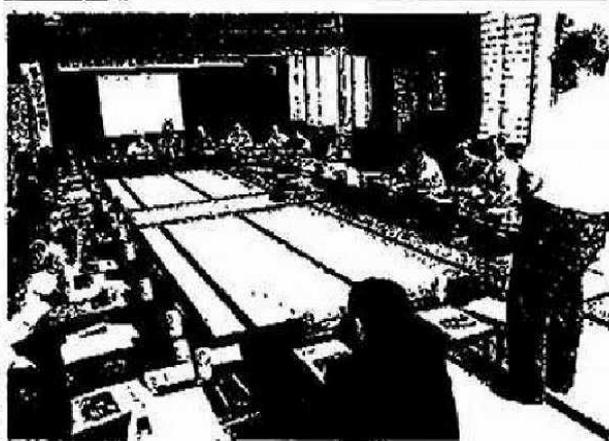
れ、二〇〇八年度の活動方針

を確認した。写真。

本年度は、自然保護活動に

取り組む県内の各団体や鶴岡

市朝日庁舎などから計八十二



人が巡視員として活動する。この日の会議には約四十人が出席。東北森林管理局側が、入山者に対する巡視員の役割について、こみの持ち帰りの指導を行うほか、自然の植生を傷めないように既存の歩道を利用するよう呼び掛けること、などと説明した。

保護地域内のスノーモービル乗り入れ問題については、

巡視活動を通じてイヌワシ、

野ウサギなどの生息状況や、

植物の損傷状況などの実態を

引き続き把握して対策を考え

ていくことを申し合わせた。

また、七月下旬に合同パトロ

ールを行うことも決めた。

山形新聞H20.8.3

留学生らが農林業体験 戸沢で森づくりに挑む



アジアやアフリカの農村のリーダーたちが研修するアジア学院(栃木県)の留学生らが一日までの二日間、戸沢村で農業や林業について研修し、知識を深めた。

ミャンマーやガーナなど九カ国から二十二、四十八歳の十四人が参加。同村の旧最上川スキー場で烏海朝日・飯豊吾妻緑の回廊(土湯の森)自然

再生実施協議会の土湯の森づくりに挑戦し、刈り払いを体験した。このほか、ミニトマトの栽培施設や炭焼き小屋を見学した。

インド東北部出身のメノピノ・クロセさん(42)は「インドは焼き畑農業なので毎年、山を焼く。森林回復のプログラムは初めての体験で、面白い」と話した。

村国際交流協会(芳賀欣一会長)が一九八六(昭和六十一)年から留学生

との交流を開始。一時中断したが、二〇〇五年から復活した。

Topics

朝日山地の生態系を
紹介する「朝日ガイド手帳」

山形県と新潟県にまたがる朝日山地森林生態系保護地域を紹介する「朝日ガイド手帳」が、林野庁・東北森林管理局の朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターから発行された。

手のひらサイズの59頁の手帳で、保護地域にまつわるさまざまな情報がまとめられている。

おもな内容は自然環境や動植物保護地域制定の背景、保全管理の取り組み、自然学習プログラムを実施する朝日自然塾の紹介など。このエリアを訪れる登山者にとって貴重な情報になるとともに、自然の大切さ、人と自然の共生、自然保護の必要性を考えるきっかけともなる。冊子希望者はふれあいセンターまで問い合わせを。

なお、朝日山地森林生態系保護地域管理委員会では、ブナなどの天然林を次世代に引き継いでいくために、登山者らに次のルールを呼びかけている。

ひとつは、大馬池周辺以外で



手のひらに収まるコンパクトな冊子

のテント設置の禁止。もうひとつは、登山道や植物などへダメージを与えないために、ストックの石突には必ずキャップを装着すること。

問合せ先「朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター」☎0235-158-1730

山と溪谷 9
2018 September

p197





東北森林管理局 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404 山形県鶴岡市下名川字落合3

電話：0235-58-1730 FAX：0235-58-1731

ホームページ：http://www.fureai-kokuyurin.jp